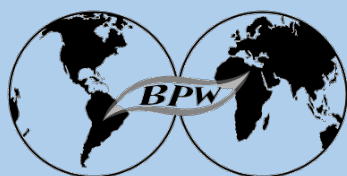


BPW Newsletter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN



2022.8.15

Vol.119

【特集】

2022 年特定非営利活動法人
日本 BPW 連合会総会
東京大会

CONTENTS

- 巻頭挨拶
2022 年 東京大会を終えて
BPW 東京クラブ会長 林 智意
- 日本 BPW 連合会東京大会
 - 基調講演
 - パネルディスカッション報告
 - 分科会報告
 - 「東京宣言」採択
 - ヤング・スピーチコンテスト
- 全国大会
- 第 15 回日本 BPW 連合会総会
- 2022 年度執行役員・組織動向
- 東京クラブ70周年懇親会
- 2022 年 EPD オンライン キャンペーン
- 第 20 回 CSW インターン募集および
平松昌子メモリアル基金
- 理事長メッセージ
- 今後の主な連合会活動予定
- 第 29 回拡大理事会報告
- その他お知らせ

日本BPW連合会ニュースレター

発行人: 名取 はにわ
編集: 広報委員会

認定 NPO 法人日本 BPW 連合会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木

2-21-11 婦選会館 303
TEL.03-5304-7874
FAX.03-5304-7876

E-mail: office@bpw-japan.jp
ホームページ: <https://www.bpw-japan.jp/>
フェイスブック
<https://www.facebook.com/bpw.japan>
インスタグラム
<https://instagram.com/epd.japan>

東京大会・総会を終えて ～人と人とのつながりがカタチをつくる～

BPW 東京クラブ 会長 林 智意

6 月 4 日・5 日の東京大会・総会は、懇親会を会場リアル参加のみ、大会・総会はハイブリッド開催と、3 年ぶりに全国の皆様とお会いできる機会となりました。

コロナ禍のため、規模を縮小しての開催となりましたが、全国から、91 名(リアル 57 名、Zoom34 名)のご参加をいただきました。ご参加の皆さまありがとうございました。開会挨拶の際、皆様のお顔を拝見し、人と直に会うことの喜びで胸がいっぱいになりました。

コロナの感染状況次第では、Zoom のみの開催も覚悟の準備でしたが、会場参加見込みを伺った際に、札幌から長崎まで「東京に行くよ!」とのご返事が、私たちにとっては心の大きな支え、励みとなり、開催のエネルギーとなりました。

セレモニー、ヤング・スピーチコンテストに続いて、林伴子男女共同参画局長の力強い基調講演、そして「災害の時代のリスクマネジメント 求められるリーダーとは」をテーマとしたパネルディスカッションでは、3 名のパネリストそれぞれの立場から有意義な意見を伺うことができました。

今年は、分科会の一つを「防災」として、「経済」・「政治」・「教育」の 4 分野で活発な意見交換を経て提言がまとめられました。「政治」の分科会では、最初の問題提起と提言のまとめをハイブリッドで、途中、Zoom 参加者はブレイクアウトルームに分かれて意見交換を行いました。

懇親会では、中川正春衆議院議員のビデオメッセージ、林伴子男女共同参画局長の力強い乾杯挨拶に続き、昨年急逝された平松さんを偲ぶ写真の数々を紹介しました。今回は東京クラブ 70 周年記念もかねて、「世代を超え、多様性を高めて前進を!」をテーマに、先輩たちの活動の紹介とリレートークを企画しました。1971 年の活動テーマは「女はなぜ管理職になりにくいのか、その壁をどう破るか」1983 年は「雇用における男女平等、われら今、何をなすべきか考える」。90 年代は「政治分野で働く女性を前進させる」をテーマにアンケート調査を実施など今でも十分通用するテーマで先進的に取り組んでいたこと、未だに解決されていないことに気づく機会でした。リレートークでは、現役社会保険労務士でクラブ最年長の安陪陽子東京クラブ名誉会長(92歳)からバトンリレーという形で、若い世代の林乙羽さん、藤田典子さんへ、そしてこれからは、世代もジェンダーも越えた人と人とのつながりで BPW の今後の発展に結びつけたいと神戸クラブ男性会員の舟木譲さんへと繋ぎました。

大会・総会ともハイブリッドでの開催となりましたが、Zoom 参加の方には、いろいろご不便をおかけすることがあったこととお詫びいたします。また連合会役員の皆様には多大なご協力をいただきましたことに深く感謝いたします。

大会中、メモリアルコーナーだけでなく、そばに平松さんがいらっしゃるような気がしてなりません。迷ったら「いいからとにかくやってみたら?」と常に背中を押してくれた大先輩から受け継いだことの重みを感じています。インターン事業も神戸クラブ再結成も平松さんが強く進めてられました。「つながり」をととても大切にする方でした。災害時だからこそ、一人ひとりに目を向けなくてはならない、またそこで問われるリーダーシップは突き抜けたカリスマ性だけではなく、人と人の関係、つながりを大切にする事なのだと確信しました。



特定非営利活動法人日本 BPW 連合会 2022 年総会・東京大会

日時:2022 年 6 月 4 日(土)~5 日(日) 会場:ハイブリッド(第一ホテル東京/オンライン Zoom)

【第 1 日目】

13:00 開会・セレモニー

13:25 ヤング・スピーチコンテスト(YSC)

14:00 基調講演

14:25 パネルディスカッション

15:45 YSC 表彰式

16:10 分科会

18:00 懇親会〈東京クラブ 70 周年〉

【第 2 日目】

8:20 物販・交流

9:00 第15回連合会総会

12:30 友の会総会

基調講演

「男女共同参画の視点からの防災について

国の政策・方針等」

講師:林伴子氏 内閣府男女共同参画局長

日本の GGI は 156 か国中 120 位、意識調査でも「男女平等」と答えたのは 21.2%、「男性が優遇されている」が 74.1%。日本の男女共同参画は道半ばで、様々な分野に影響している。例えば、地方では女性が多く流出しており、その背景には女性が活躍できる職場がない、男尊女卑の風潮がある。女性が残らないから、地方で少子化が進み、活力を失う。男女共同参画は多くの課題とつながっているのである。

局長に就任した 2020 年夏、やるべき事がたくさんあると理解した。内閣府男女局の仕事は二つ。一つは総合調整業務で男女共同参画に向けた政策の基本的方向性を示すこと、もう一つは他省庁との分担管理業務で男女共同参画推進のために必要な施策を進めること。この二つで、ジェンダー平等を本気で進める必要を感じた。

男女局だけでは男女共同参画は実現できない。いかに他省庁を巻き込めるかが重要である。まず、用語を見直した。男女共同参画に関する言葉は難しくわかりにくい。例えば、「女性の経済的エンパワメント」は「女性の経済的自立」へ、「ジェンダー主流化」は「女性の視点からの〇〇の見直し」とした。全く同じではないが、一般に広くわかってもらうことが重要である。また、他省庁の幹部を巻き込む装置として「計画実行・監視調査部会」を昨年秋に立ち上げた。テーマに応じて関係する他省庁幹部(局長、審議官)に集ってもらい、データで問題を示し、有識者のコメントをいただき、オンライン会議で公開し、議論の土台を作った。

次に、データの充実を図った。「2:6:2 の法則」という考え方がある。男女共同参画推進に賛同 2 割、反対 2 割、どちらでもない 6 割と考え、無関心層をどう味方につけるかが重要である。そこで、データというエビデンスで問題を提起した。例えば、男女賃金格差では、同じ正社員でも賃金に男女差がある、学歴別では同じ学歴でも賃金の男女差がある、国際的にも日本の男女賃金格差は大きいなど、データを示して問題を具体的に提示した。

2020 年 12 月第 5 次男女共同参画基本計画の策定以降、地方議会の会議規則の改正、命の安全教育、生理の貧困、コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会など、様々な課題を取り上げてきた。2022 年 3 月 8

日国際女性デーでは、内閣総理大臣が初めてビデオメッセージを発出した。

6 月、「第 5 次男女共同参画基本計画」を着実に実行するために、令和 4・5 年度に重点的に取り組むべき事項を定めた「女性版骨太の方針 2022」を発表した。重点方針は、Ⅰ女性の経済的自立、Ⅱ女性が尊厳と誇りをもって生きられる社会の実現、Ⅲ男性の家庭・地域社会における活躍、Ⅳ女性の登用目標達成とした。

人生 100 年時代の女性の人生や家族の姿は多様化した。女性の平均寿命 87.7 歳、死亡年齢最頻値は 93 歳。家族類型は単独世帯 38% ひとり親・子どもが 9% で合わせて 47% を占める。ところが税や社会保障制度は標準世帯(夫婦+子供 2 人の 4 人構成の世帯で有業者が世帯主 1 人だけ)を想定しているが、それ以外の家族も多く、実態を前提とした制度設計を考える必要がある。

昭和の時代に作られた各種制度や男女賃金格差を含む労働慣行、固定的役割分担意識は構造的問題である。今回、女性活躍推進法の制度改正を実施し、男性賃金に対する女性賃金の割合を開示することを義務化し、有価証券報告書についても同内容の開示を義務付けた。また、職種間賃金格差の是正のために看護、介護、保育などの分野で働く人の収入アップや女性デジタル人材の育成も盛り込まれている。

更に、固定的性別役割分担・無意識の思い込みを解消するために、結婚すれば生涯、経済的な安定が約束されるという価値観で女子を育てることのリスクについて認識することが求められる。「永久就職」という言葉はもはや過去のもの。男性へのアプローチも必要。子育てに関わりたい男性は多く、内閣府調査で家事分担したいとの回答は 7 割以上。が、男性の育児参画を阻む壁もあり、公共施設へのベビーベッド設置などを盛り込んだ。

男女共同参画の視点からの防災への取組では、防災復興の政策や方針決定の過程に女性が参画していないことが問題である。国の防災会議や地方防災会議にも女性は少ない。防災や危機管理部署に女性が少ないことも課題である。男女局の調査では、防災・危機管理部署に女性ゼロの市町村は 62%。女性がいないと男女のニーズの違い等に配慮がないが、女性がいると備蓄や女性や乳幼児に必要なものが充実する。

平常時にできていないことは、災害時にはなおさらできない、平常時からあらゆる復興施策に男女共同参画の視点を入れることは被害全体を縮小し、災害に強い社会が作られるのである。

パネルディスカッション

『50:50 へ前進を! “災害の時代のリスクマネジメント 求められるリーダーとは』

パネリスト 佐藤 わか子氏(仙台市議会議員)
奥村 徹 氏(救急・集中治療医)
布柴 靖枝氏(文教大学人間科学部教授)
コーディネーター 澤田 順氏(BPW 東京クラブ会員)

●澤田順さん 日常的ではない事態にどう備えるか、そのリーダーシップをどう捉えるか。コロナ・パンデミックの初期、各国の女性リーダーの力、従来型のリーダーと違うやり方の可能性が各所でコメントされた。日本の自然災害では阪神・淡路大震災、東日本大震災、また世界に衝撃を与えた無差別テロ・地下鉄サリン事件の現場で、それぞれの専門の立場で対応に当たったパネリストの経験を聞く。予測不可能な事態に対応するリーダーに求められるもの、そのスキルとは?これまでの好事例を聞いていく。

●佐藤わか子さん 仙台市議6期24年務め、3・11 東日本大震災の経験から、リスクマネジメントには女性リーダーが絶対必要だと思うが、女性だから良いとは断定できない。被災後の3段階で、第一段階:発生時は男か女か、リーダーか否か、どこではない。津波災害では現場の鶴の一声でどこに避難したかで、生死が分かれた場面もあった。緊急時にいかに冷静な判断ができるかには男も女もない。第二段階:避難所のマネジメントでは、生活の場であるという視点で、女性の参画が効果を発揮したことが、事後インタビューで明らかになった。第三段階:仮設住宅の段階を含めて、平時の地域組織が男性中心の意思決定だと、バランスの取れた運営マニュアルに落とし込むことができない。最初から防災会議に女性を入れることが絶対に必要。自分自身が女性議員だから何かできたということではないが、相談がいろいろ寄せられた中で、人工透析患者団体からのガソリン不足の訴えは、緊急対応が求められた。命に係わるとの涙ながらの訴えに、緊急車両用備蓄の利用を県に粘り強く交渉し、奇跡的に2日後にOKをもらえた。が、他の疾患の人からは吊し上げにあった。リーダーは、女でも男性でも、最終的には覚悟が必要。逃げない、ぶれない、信念をもってやれることが条件である。的確な情報収集力、予測ができないといけな。

●布柴靖枝さん 神戸市ソーシャルワーカーとして8年働いた後、仙台に移り、阪神淡路・東日本両方の震災で心理専門家として心のケアに係った。震災は一瞬にして日常の風景が一変する。生活していた家、町が壊れることでアイデンティティ、心が壊れる。またトラウマ体験は急性のASDから心的外傷が後発するPTSDの発症、怒りのぶつけ先のない自然災害の特徴から身近な家族関係の悪化、不安からの逃避が性犯罪などにつながるケースなど、さまざまな問題を生む。

防災・災害対策には自助・共助・公助の三つのバランスが重要。日ごろの各自の備え、それぞれの避難能力などの自助、公的仕組みを整える公助、これらは個人や国の努力の積み重ねで進んできた。しかし日本は共助が最も遅れている。NPOなどの関わりで、避難所など平時からジ

ェンダーの視点でしっかり備えるなど、地域を知り、多様なパートナーシップで自助と公助の間をつなぐ意識と働きが重要。災害対策は時々刻々とニーズが変化する。支援者支援の視点も重要。

国連ではCSW2022のテーマに気候変動が掲げられた。女性や若者のリーダーシップが減災につながると言われている。リーダーとなる人材育成には日ごろから備えること。トンガでは東日本の教訓を生かし、津波ドリルで訓練を繰り返し、先日の海底火山爆発後の大津波で減災につながった。内閣府にも災害対応力を強化する女性の視点を説いたドリルがある。(必見)人材育成は教育でかなりできると信じている。

●奥村 徹さん 東日本大震災時は官邸におり、透析患者についても福島原発から30km圏内の患者搬送のコーディネーションを実施した。透析医会は危機意識を持って震災前から災害時対策に積極的に取り組んでいた。日ごろの積み重ねが礎になった。他にも、人工呼吸器、在宅酸素を使う患者などへの取組も始まった。自然災害のほか、1994~95年は松本・地下鉄サリン事件で現場の救急医療に当たり、その記録を出版した。大学人としての活動の後、行政にかかわり、安全保障危機管理担当として、OPCWという化学兵器の専門家が集まる、ノーベル平和賞を受けた団体の活動にも参加した。

こうした危険有害業務の現場で、ジェンダーの観点からいうと、日本では労基法64条3の規定、女性保護=妊産婦保護の目的で、化学テロ対応任務に女性が就けない。唯一の例外が警視庁で、テロ対策部隊である公安機動捜査隊には女性があり、防護服を着て任務に当たっている。海外ではOPCWには50:50で女性が参画している。母性保護と職業選択の自由の点で、すべての女性が妊娠している可能性があるかのような扱いをする事について、問題提起したい。福島原発の事故では、放射性災害の最前線で優秀な女性研究者も対応にあたった。

リスクマネジメントは海外が進んでいるように言われるが、コロナ禍ではどこもうまくいっていない。アメリカはCDCが注目されるが、死者の数はとんでもなく多い。学ぶべき点はある、日本も独自の考え方がある。防疫危機管理の司令塔を置く議論もあるが、ベストプラクティスが出ていない。そもそも危機管理に満点はない。「8割でいい、赤点でなければ」くらいの感覚で内外問わずいいところをシェアして、ベストプラクティスを各国が知恵を寄せ合うべきである。日本の防災の歴史を学びながら、少しずつ進んでいければと思う。現場でいろいろな人を見てきたが、リーダーシップのあるなしは極めて先天的なもので、訓練でなせるものではないと思う。

●まとめ 澤田順さん 生きるための備え、防災、復興の力を持つには女性・若者を含めたダイバーシティを持った取り組み、やはり男女共同参画で具体的な取組を進めていくことが肝要ではないか。

分科会報告 『“災害”の時代のリスクマネジメント』

分科会 A

経済：「コロナ禍で顕在化した女性たちのリスクマネジメントとは？」

コーディネーター：名取はにわ理事長（東京）
アドバイザー：藤田ひろみ監事（福岡）
参加数：12名（会員10名、一般2名）

目的 新型コロナウイルス感染症パンデミックで、非正規労働者の女性の失職や、シングルマザーの失業率上昇など「女性不況」が生じた。男女賃金格差の現状をふまえ、日本の政策を共有し、賃金格差をさらに縮小するために何をすべきかを議論する。

討議内容 コーディネーターが男女賃金格差の現状と女性版骨太の方針2022等について資料説明の後、男女賃金格差是正の具体策について議論した。

提言

1. 男性の片働きも賃金格差に影響。男女間の不平等を是正し、女性の経済的自立を促すために男女賃金格差を解消する必要がある。
2. 女性が自ら選ぶことが大事-女性が自らの生き方を選択できるよう、企業における情報開示、大学での社会人教育を行う。
3. 女性の働き方の制限につながる第3号被保険者制度を見直す。

分科会 B

政治：「看過できない！政治分野のジェンダー不平等-災害の犠牲・リスク減らすために」

コーディネーター：黒崎伸子理事（長崎）
アドバイザー：佐藤わか子（個人会員）
参加数：30名（会員29名、一般1名）
*Bのみハイブリット：会場11名、オンライン19名

目的 災害時の犠牲は弱者により大きい。法律施行や改正でも変わらない政治分野のジェンダー不平等は、多様性を無視した政策になるリスクが高い。女性議員を増やすことは急務である。

討議内容 コーディネーターが日本の政治分野のジェンダー平等と災害対応に関わる男女共同参画について説明。議員であるアドバイザーが、女性議員が増えない要因についてコメントした。会場およびオンラインでグループに分けて意見交換を行った。

提言

1. クオータ制の導入…実効性のあるクオータ制導入。
2. 有権者が政治を身近なものと感じる働きかけが必要。「まずは投票に行こう」-選挙 DX
3. 初等教育からの政治教育・当事者教育
4. 公職選挙法の改正…小選挙区比例代表並立制の廃止、被選挙権年齢の繰り下げなど
5. 防災対応・政策等への女性の参画…自然災害の犠牲者数は、女性は男性の1.4倍多い。
6. Qの会のような活動を全国各地に広める。（例：Qの会・北海道）

分科会 C

教育：「ジェンダー・バイアスのない教育で災害時のリスクマネジメントを進めよう！」

コーディネーター：中野洋恵企画委員長（東京）
アドバイザー：二ノ宮寛子ヤング委員長（札幌）
参加数：6名（会員5うち男性1名、一般1名）

目的 自然災害やコロナ禍で、教育現場ではふだんと異なる対応が必要になった。人間関係の重要性が認識されるとともに IT リテラシーの必要性も増大した。これらに対応するには、ジェンダー・バイアスのない環境をつくることが求められる。日本の現状、国際的な動向を踏まえ、課題を明確にし、対応策を考える。

討議内容 コーディネーターが日本の教育現場の現状と課題について、アドバイザーがSTEM教育について説明した後、2グループに分かれて主な課題やその解決方法について意見交換した。

提言

1. 平時からのリーダーシップ育成が必要である。満点でなくとも、災害時のリスクマネジメントにおける満足度を上げることはできる。
2. アンコンシャス・バイアスがあることを前提に、固定的役割分担意識を押し付けない教育を学校、地域、家庭で進める。ジェンダーの視点を育成する。
3. オールラウンドな女性人材（STEM も含む広範な分野の知識・技術をもつ人材など）の育成が望まれる。

分科会 D

防災：「日頃からのリスクマネジメントと災害時のハラスメント対策」

コーディネーター：林智意組織委員長（東京）
アドバイザー：布柴靖枝副理事長（東京）
参加数：13名（会員のみのみ）

目的 自然災害の多い日本で、不確実なリスクのある今は、「災害」の時代である。そこで、平時から必要な備えなど、想像力を働かせてリスクマネジメントを行い、自助・共助・公助の仕組みづくり、その間をつなぐ方策を検討する。また、災害時に最も顕在化する女性や子どもへのハラスメントを予防する対策についても検討する。

討議内容 コーディネーターが、「日頃からのリスクマネジメントと災害時のハラスメント」について資料を使って説明した後、2グループに分かれて、各レベル（個人・地域・国やグローバル）でできること、あらゆる暴力の排除について討議した。

提言

1. 自助-公助をつなぐには、各自の情報発信と平時からの地域でのネットワーキングに努める。
2. 減災のための共助には、防災をコアとしたコミュニティ組織（既存の町内会や自治会など）で、女性の視点を持った防災対策の推進には、女性役員を増やす必要があり、行政に働きかける。
3. 防災会議にもっと女性を入れる。
4. 男性も含め、日頃から暴力排除の意識を高める。

2022 年 特定非営利活動法人日本 BPW 連合会 東京宣言

日本 BPW 連合会は、2022 年 6 月 4 日の東京大会において「“災害”の時代のリスクマネジメント」を共通テーマに 4 つの視点から分科会で議論を重ねた結果、以下の宣言を採択する。ジェンダー不平等は最大のリスクという認識に基づいて、これらを異次元のスピードで推進することを強く求める。

【経済】 女性の経済的自立を実現するために、次の提言をする。

1. 女性活躍推進法関連政策を変更し、男女の賃金格差を「見える化」とするとともに、賃金格差解消のための具体的行動計画の作成を事業主に求める。
2. 女性が自らの生き方を選択できるよう、女性活躍推進の取り組みに関するさらなる情報開示を事業主に求める。
3. 女性の働き方の制限に繋がる第 3 号被保険者制度を迅速に見直す。

【政治】 議員の半分以上を女性にするために、次の提言をする。

1. 政治が日々の生活に関わることを学ぶ当事者教育を初等教育の段階から取り入れる。
2. 選挙 DX*を積極的に導入することにより、投票行動につなげ、民意を高める。
3. 実効性のあるクォータ制導入により、女性の政治参画を加速する。
4. 小選挙区制の見直し、小選挙区比例代表並立制の廃止、比例区 1 位を必ず女性にするなど、公職選挙法の改正を求める。
5. 防災での意識改革には、地域リーダーの育成が重要である。性差・年齢など多様な人材が関与することを通じて、政治や自治体運営での女性活躍の場を広げる。

*選挙 DX: 選挙の DX (デジタル・トランスフォーメーション) とは、SNS が広報ツールだけでなく、双方向性コミュニケーションを可能にし、有権者は候補者や政治を知り、さらに政策に関わる機会を得ることができる。また、インターネット投票が可能になれば、より幅広い層が投票し、選挙に民意が反映されることにつながる。

【教育】 教育におけるジェンダー不平等の解消のために、次の提言をする。

1. 誰もがアンコンシャス・バイアスを持っていることを前提に、固定的役割分担意識を押し付けない教育を学校、地域、家庭で推進する。
2. 教育現場におけるジェンダー平等の実態をきめ細かく調査することによって、不平等な現状を「見える化」し、是正する。
3. 自己肯定感を高める教育を推進する。
4. 国際的な動向を視野に入れ、STEM 教育の充実を図る。

【防災・減災】 ジェンダー不平等による災害時のリスク軽減のために、次の提言をする。

1. ジェンダー平等推進が減災につながるという認識を共有し、防災・減災対策に関わるあらゆる組織への参画を男女 50 対 50 とする。
2. 平常時から災害に対する危機意識を高め、自助・共助・公助の連携を強化する。
3. 災害時に増える性暴力・ハラスメントの防止等、ジェンダーの視点から防災・減災に取り組むことができるリーダーの養成に努める。

採択された「東京宣言」は、名取理事長により、2022 年 6 月 22 日に内閣府男女共同参画局・林伴子局長に、6 月 29 日には、文部科学省総合教育政策局・藤原章夫局長（他に課長ら 3 名同席）に、7 月 1 日には、厚生労働省雇用環境・均等局 村山誠局長・石津克己雇用機会均等課長に、それぞれご説明のうえ、宣言を手渡し、真のジェンダー平等実現に向けた協力を要請した。いずれも、役員から中野洋恵企画委員長と佐藤道子会計が同行した。

内閣府男女共同参画局訪問 （左から佐藤・名取・林局長・中野）



第 19 回 ヤング・スピーチコンテスト

全国のブロック予選から 4 人の女性たちが、それぞれの生き方や仕事への想い、さらなるチャレンジについて素晴らしいスピーチを披露されました。

最優秀賞 林田茉優さん(西日本ブロック代表)
『日本の宝である技術・伝統を次世代へ』

理事長賞 大塚 紗弓さん(北海道・東北ブロック代表)
『戦略的シングルマザーとしての生き方』

ヤング BPW 賞

石倉 香鈴さん(関東・山梨ブロック代表)
『国立女性教育会館で働いていて思ったこと』
森本 紗慧さん(近畿ブロック代表)
『私と仕事』

表彰が終わって、
笑顔のスピーカー
たち ⇒

**- 総会 -****第 15 回 特定非営利活動法人日本 BPW 連合会総会**

日時：2022 年 6 月 5 日(日) 9:00~12:00 場所：第一ホテル東京 & オンライン

議長：大倉多美子(東京)、副議長：前田佳子(東京)
書記：小林洋子(東京)、松浦なつひ(東京)

会員総数 237 名 出席者数 165 名(定足数以上)
(参加者 66 名(会場 42 名+Zoom24 名)+委任状 99 名)

≪総会議事≫**第 1 号議案 議事録署名人の選出**

議事録署名人に大倉多美子議長、名取はにわ理事長、林智意理事(東京)を全員一致で選出。

第 2 号議案 議題の承認 ◇満場一致で承認**第 3 号議案 2021 年度事業報告**

藤田典子専務理事による概要説明の後、執行役員が担当する委員会やプロジェクトの要点について発言。
◇満場一致で承認

第 4 号議案 2021 年度会計報告**第 5 号議案 2021 年度監査報告**

佐藤会計による会計報告と藤田ひろみ監事による監査報告の後、質問なく、2 議案同時に表決。
◇満場一致で承認

第 6 号議案 2022 年度統一テーマ・活動方針(案)**第 7 号議案 2022 年度事業計画(案)**

名取理事長による第 6 号議案の説明の後、2 議案同時に表決。 ◇全員賛成で可決

第 8 号議案 2022 年度予算(案)

佐藤会計より説明。 ◇全員賛成で可決

第 9 号議案 クラブ代表理事交代の承認

◇満場一致で承認

第 10 号議案 その他 なし

総会終了に当たって、田代早苗副理事長が挨拶。

総会後の意見交換では、会場だけでなくオンライン参加者からも、連合会組織やブロックの在り方、会員活性化(特に若い会員)などについて活発な発言があった。

2022 年執行役員一覧

役職	名 前 (所属)
理事長	名取 はにわ (東京)
副理事長	中山 由美子 (神戸)
	布柴 靖枝 (東京)
	田代 早苗 (東京)
専務理事	藤田 典子 (神戸)
会 計	佐藤 道子 (東京)
企画委員長	中野 洋恵 (東京)
組織委員長	林 智意 (東京)
広報委員長	饗庭 敦子 (長崎)
国際委員長	林 乙羽 (東京)
財務委員長	小原 智津 (和歌山)
ヤング委員長	二ノ宮 寛子 (札幌)
監 事	齋藤 京子 (東京)
	藤田 ひろみ (福岡)

◇新就任理事

中西葉子(和歌山クラブ)←栗山由香子

安恒万記(福岡クラブ)←原田ゆみ子

◇クラブ・アソシエーツの異動

・クラブ→アソシエーツ移行：山形

・クラブ解散：熊本

・アソシエーツ解散：苫小牧、青森、京都

*解散クラブ・アソシエーツの一部会員は個人会員に移行か、他クラブに所属。

東京クラブ 70 周年 懇親会

名取はにわ理事長による挨拶の後、中川正春衆議院議員はビデオメッセージで、2018 年ベストメン受賞や平松昌子前理事長との思い出を語って下さった。

基調講演を務めてくださった林伴子・内閣府男女共同参画局長に、来賓あいさつおよび乾杯のご発声を頂いた。「日本のジェンダー平等は、1 周や 2 週の遅れどころではなく、とてつもなく大きく遅れている。これを取り戻すには、並みのスピードでは追いつけない!それこそ、“異次元のスピード”で取り組まなくてははいけない。」とおっしゃって、会場は大拍手! 気合の入ったこの表現は、東京大会のキーワードとなった。

会食の間には、平松さんの出演ラジオ音声流され、続いて彼女を偲ぶスライドの映写に、目頭を押さえる多くのメンバーの姿があった。

「世代を超え、多様性を高めて前進を!」と題した 70 周年 トークコーナーでは、東京クラブ名誉会長で長い間 BPW の活動に貢献された安陪陽子さん(92 歳)、次世代を代表して林乙羽国際委員長や藤田典子専務理事(どちらも CSW インターン経験者)らが、BPW への想いを語った。

参加者紹介では、ゲスト参加の雇用機会均等法と候補者男女均等法の二つの生みの母である赤松良子さん(元文部大臣、クオータ制を推進する会代表)に続いて会員をクラブごとに紹介し、最後に長崎クラブ黒崎伸子会長が「来年は長崎で会いましょう!」と呼びかけた。道浦京子実行委員長が閉会の挨拶をして、久しぶりにリアルで会えたことを喜びつつ終了した。



2022 年イコール・ペイ・デイ 5 月 1 日 オンライン キャンペーン

「2021 年 1 月 1 日に男女が働き始めて、男性が 1 年間で手にした金額を、
女性は 2022 年 5 月 1 日まで働いてようやく手に出来る！」 = 4 か月 + 1 日も長く働いて、やっと！

2022 年 3 月 31 日付で厚生労働省のデータが発表され、2022 年のイコール・ペイ・デイ (EPD) は、5 月 1 日と確定した。2020・2021 年の 5 月 6 日から、5 日だけ早くなった。今年もコロナ禍で各地域でのキャンペーン実施困難であることが予想され、当日にまずオンラインでの全国キャンペーンを実施した。また、これまでも何度か EPD 全国会議でお話下さった矢島洋子さんが、最近の男女賃金格差の課題について LIVE で講演して頂いた。

開催日: 2022 年 5 月 1 日 (日) 19:45~21:00

参加者: 39 人 (うち会員 38 人) 形式: Zoom

<プログラム>

1) EPD2021 のデータ報告 中野洋恵・連合会企画委員長

2) 「男女の賃金格差: 解消への道筋と新たな課題」

矢島洋子氏 (三菱UFJ リサーチ&コンサルティング (株) 執行役員/主席研究員)

女性活躍はダイバーシティのテーマの一つであること、ポジティブアクションよりも働き方改革や人事制度改革、ビジネスモデルの見直しなど本質的な改革も求められることなどを指摘。

3) 各地の EPD 活動紹介



◆第20回 CSW*インターン募集

日本 BPW 連合会は、国際問題に関心をもつ若い女性を対象に、NY の国連本部で開催される女性の地位委員会にインターンを派遣してきた。2004 年の第 1 回派遣から、今回で 20 回目となる。



*United Nations Commission on the Status of Women の略

目的: 国際問題やジェンダーの問題、国連に関心を持つ、あるいは将来それらに関して働きたいと考えている女性を支援するもので、国連本部や周辺施設で行われる様々な関連行事へ参加を通じて、国際的な感覚・知識の育成をめざしている。

期間: CSW67 は、2023 年 3 月 6 日~17 日の予定。過去 2 回はコロナ禍で NGO 関係者はバーチャル参加限定であったが、次の開催方式は未定で、今後 BPW ホームページで案内する。

テーマ: 「ジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメント達成のための革新および技術変革、そしてデジタル時代の教育」

募集対象: 国際問題、女性問題、国連に関心をもつ 20~35 歳の女性、若干名。

7つの特典

- ✓ パラレル・イベント (NGO 主催イベント) を企画・運営し、世界の NGO と交流できる。
- ✓ CSW 会議と並行して行われる様々なイベントやワークショップに参加し、発言・意見を述べるができる。
- ✓ 国際 BPW (IFBPW) 主催の各種活動 (ワークショップや交流会など) に参加し、各国の IFBPW メンバーと交流できる。
- ✓ 国連や CSW に関する説明や解説を事前あるいは現地で受けることができる。
- ✓ 日本政府代表部が行う NGO 参加者対象の公式説明会に参加できる。
- ✓ 世界各国の女性団体の参加者と交流できる。
- ✓ 国際関係・ジェンダー問題を専攻する学生には、論文作成などのための最前線の資料が入手できる。

費用: 航空運賃・宿泊費・生活費は原則自己負担。登録料が必要な各種会議やイベントも原則自己負担。ただし、BPW 関連イベントについては、一部補助あり。*

応募方法: 応募必要事項記載の上、小論文をメールで提出 (詳細は、以下ホームページ参照)

<https://www.bpw-japan.jp/japanese/csw.html#csw2023>

応募メチ: 2022 年 9 月 10 日

結果発表: 2022 年 10 月 10 日

問い合わせ先: csw2023@bpw-japan.jp

-メールで日本 BPW 連合会インターン担当へ



ご応募をお待ちしています。

**平松昌子メモリアル基金

JWLI*創設者である Fish 東光厚子さんから、2021 年 11 月に逝去した平松昌子前理事長のジェンダー平等への熱意とリーダーシップに敬意を表するとともに、彼女のレガシーを後世に引き継ぐために、期間限定で日本 BPW 連合会の事業に寄付をしたいとの申し出があった。平松前理事長が始めた事業は数多いが、次世代育成をめざし、第 1 回当初から毎年同行していた CSW インターン派遣事業が適当と判断し、『平松昌子メモリアル基金』として、Fish Family 財団と覚書を交わした。

2022 年度から 3 年間は、CSW 派遣インターンは、現地あるいは帰国後の国内などで、その成果を発表したり、各種イベントを開催することに対して、支援金を得られることになった。

※JWLI/Japan Women's Leadership Initiative (日本女性リーダー育成事業): 日本女性のリーダーシップ育成・支援を目的に 2006 年に設立され、米国ボストンに 4 週間滞在して、NGO 活動や運営について学ぶフェローシッププログラムで、2017 年以降は JWLI-II (活動実行を重視) へ内容が強化された。平松昌子さんは、2006 年 JWLI の一期生であった。

第 29 回拡大理事会報告

2022 年 7 月 18 日(月・祝)
18:00~21:00 Zoom 開催

議事

- 1) 2022年度活動計画・常任委員会 PT の役割・スケジュール・メンバー募集
 - 2) 今年度のブロック研究会について
 - 3) 規程・規則改正及び訂正について
 - ・規則ニ クラブ、アソシエーツに関する規則 第4条の見直し
 - ・規則ハ 選挙管理規則 第2条 選挙管理委員の選出の改正
- ※ 議案は全て承認されました。議案詳細は、理事・各会長にご確認ください。

報告・連絡事項

1. EPD 全国会議について: 9/18
 2. 今年度イベント・講座などについて
 3. その他(平松昌子メモリアル基金と CSW インターン募集開始)
- *終了後、BPW の今後の活動・各クラブ・アソシエーツの活動テーマ・目標について意見交換を行った。

全国からの情報コーナー

◇公開例会

各クラブの例会が、企画内容によってオンライン公開されることがあります。連合会事務局から全国の会員にご案内しますので、ぜひご参加ください

- ・札幌クラブ: 原則第3火曜日
- ・東京クラブ: 第3木曜日 or 第4火曜日(8/23・9/15・10/25・11/10)
- ・神戸クラブ: 原則第2水曜日

◇参議院選挙2022、BPW 会員は?

- ・舟山康江会員(山形): 当選3期目
- ・宮沢由佳会員(山梨): 次点 惜敗
- ・白川鮎美会員(長崎): 次点 惜敗

GGGI2022

—日本は 116 位/146 カ国

2022年7月13日、世界経済フォーラム(WEF)が発表したジェンダーギャップ指数(The Global Gender Gap Index= GGGI)で日本の男女格差は146 개국中 116 位と相変わらず下位レベル。教育・健康の2分野で指数・順位は改善したが、政治・経済分野の男女格差は非常に深刻であり、この改善には異次元のスピードでの取り組みが求められる。

*速報は HP に掲載⇒



◇名取はにわ・連合会理事長メッセージ◇

『アドボカシーを掲げる団体として、異次元のスピードで前進する覚悟を!』

6 月 16 日は、平松さんが生きておられれば 89 歳の誕生日。私も平松さんに誘われて BPW に入った 1 人で、誘ってくださったことに深く感謝をしている。

私が男女共同参画局長をしていた 2003 年から 2006 年は、男女共同参画に対して激しいバックラッシュが吹き荒れた時代であった。「郵便ポストが赤いのも、電信柱が高いのも、みんな男女共同参画が悪いのよ!」と。「たけしの TV タックル」では、毎週のように巨額な予算がしょうもない男女共同参画予算に使われているとやり玉に挙げられた。巨額の予算の中には巨額な年金予算も計上されていて、男女共同参画政策に直接関係する予算は微々たるものだったが、擁護してくれる人はいなかった。頼みの綱は、日本 BPW 連合会をはじめとする女性団体だった。

あれから 20 年。昨年は流行語大賞のトップ 10 に「ジェンダー平等」が選ばれ、林伴子男女共同参画局長のご尽力によってさまざまな課題が顕在化し、解決へ向けて進み始めている。「だが、しかし…」と私の内なる声は言う。良いこともあれば悪いこともあるのが、人の世。いつまた揺り返しが来ないとも限らない。決して後戻りさせないため、必要なことは何か?ジェンダー平等を実現するために何をすべきなのか?

心ある女性達が、証拠に基づく力強い声を上げ続けることが必要だ。私達一人一人がよく学び、実践を通して声を上げ続けること。そのための勉強の機会、行政に提言する力、政治家に訴える力、全てを持っているのが、日本 BPW 連合会である。会員一人一人の力を結集して、異次元のスピードでジェンダー平等を達成しましょう!203050に向けて!



今後の主な連合会の活動予定

2022 年

- 9 月 18 日(日) イコール・ペイ・デイ EPD 全国会議
- 11 月予定 近畿ブロック研究会(大阪)
- 12 月 1~21 日 NWEF「男女共同参画推進フォーラム」: オンライン開催
- 12 月上旬 西日本ブロック研究会(長崎): ハイブリッド開催予定
- 12 月 10 日(土) 関東山梨ブロック研究会(山梨): リアル開催予定
- 未定 北海道東北ブロック研究会(山形)

2023 年

- 2 月 18 日(土) 中部ブロック研究会(名古屋)
 - 5 月 27-28 日(土・日) 日本 BPW 連合会 2023 年総会・長崎大会
- ブロック研究会には、ぜひ多くの方にご出席いただき、意見交換などを通じて、会員同士の交流を深めて頂きたいと思っております。

◇ダイバーシティ・エデュケーター養成事業カリキュラム 2022◇

2022 年度ハラスメント対応講座は、7 月 30 日に基礎編、31 日に応用編がオンラインで開催されました。この応用講座修了生が、日本 BPW 連合会認定ダイバーシティ・エデュケーター資格を取得するためには、順次開催される指定講座を受講し所定のポイントを獲得する必要があります。これらの講座については、当該資格申請予定者以外の一般の方々、全国の会員にも公開しているので、興味あるテーマがあれば、参加登録下さい。

詳細は、右記 HP へ⇒



広報委員会より: 情報発信、編集作業などをさらに充実したいと思っておりますので、文章を書くのが好きな方、SNS が得意な方、メディアに強い方、隙間時間で協力できる方、ぜひ、広報委員に応募してください。(饗庭)